

第4回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会  
会議録

平成27年5月22日

竹富町

企画財政課

## 会 議 録

会議の名称	第4回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会				
開催日時	平成27年5月22日（金曜日）午後2時～午後5時				
開催場所	竹富町役場2階委員会室				
委員長及び副委員長	委員長 上妻 毅 副委員長 池間 義則				
委員	氏名	出欠	委員	氏名	出欠
1	赤嶺 毅	出	2	池間 義則	出
3	今井 恒子	出	4	越善 靖夫	出
5	大浜 一郎	出	6	上妻 毅	出
7	土屋 誠	出	8	三木 健	出
9			10		
<p>○竹富町出席者</p> <p>竹富町長 川満栄長 竹富副町長 上里 至</p> <p>事務局／企画財政課</p> <p>・課長 勝連 松一 ・課長補佐 小濱 啓由</p>					
会 次 第	<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">(1) 第3回委員会の論点（意見・指摘等）について（資料1）</p> <p style="padding-left: 20px;">(2) 関連報告</p> <p style="padding-left: 40px;">① 役場庁舎利用者実態調査の結果について（概況とポイント）（資料2）</p> <p style="padding-left: 40px;">② 船舶交通に関する町の施策動向（船賃軽減事業、社会実験航路）（資料3）</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 新庁舎建設に係る規則・計画・財政措置等について（資料4）</p> <p style="padding-left: 20px;">(3) 審議事項</p> <p style="padding-left: 40px;">① これまでの調査結果をふまえた今後の行政サービス提供のあり方（資料5）</p> <p style="padding-left: 60px;">・新庁舎に求められる機能</p> <p style="padding-left: 60px;">・各島および石垣市に置くべき機能</p> <p style="padding-left: 40px;">② 新庁舎・支所等の機能分担のあり方に関する比較検討（資料6）</p> <p style="padding-left: 60px;">～望ましい行政システムの構築に向けた検討及び総合評価～</p> <p style="padding-left: 40px;">③ 委員会から町への提言文の内容について（資料7）</p> <p style="padding-left: 20px;">(4) 質疑及び意見交換</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p>				

## 1 開会

### 司会

開会する旨を告げる。

これまで委員を務めて頂きました琉球大学の**大城学長**が、職務のご都合により退任され、又**沖縄県物産公社代表取締役社長**の立場として委員をお務め頂いた**上里至副町長**が現職就任となり委員を退任されております。**大城学長**の後任委員としては**琉球大学教育学部教授**の**島袋純様**に就任依頼予定しております。その件について改めてご紹介させていただきます。

また、去る4月1日に企画財政課の人事異動があり職員の配置換えがありました。これまで当委員会にも携わり、3月迄当課の課長補佐をしておりました**新盛**が**自然環境課長**に就任しました。その後任といたしまして、**私小濱**が課長補佐の職を拜命し、本件も引き継いでおります。宜しくお願いいたします。

### □資料の確認

## 2 町長あいさつ

### 川満町長

委員の皆さん本当に大変お忙しいこの時期、日程をこの日に調整して頂きまして、ご出席を賜りました。心よりお礼を申し上げます。有難うございます。先ほど司会からもありましたがこれまでこの委員会の委員を務めていました**上里至さん**が**新副町長**として就任いたしました。後程ご挨拶の時間を頂きたいと申しております。沖縄県でキャリアとして大いに活躍した方です。経験、知識、様々なノウハウをお持ちの方ですから、議会でも全会一致で同意を頂きました。同じ志、同じ方向に向かって町民の為にしっかりと汗を流していこうということを確認し、今、日々町民の為に汗をかいているところです。どうぞ皆様これからもご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げたいと思っております。

昨年から気になることがあります。今、国が地方創生ということで、地方に目を向けてひとつの方針を示す、その方針の中で**人口減少検討懇談会**というのがあります。元総務大臣を務めた**増田寛也さん**が座長で**日本創生会議**というのがあり、いろいろ講演をされているようですが、実は**1741**市区町村、全国でありますけれども、その中で**896**の自治体が消滅の可能性があるというふうに打ち出しております。その中で、高い可能性というのが**523**ありまして、**沖縄県**から**9**つの自治体が**リストアップ**されており、**竹富町**もその中に実は入っているのですね。これは大きなショックというふうに受け止める場所も必要ですが、それよりもましてしっかりと取り組めと、頑張れよというシグナルとして受け止めていこうと、そして職員の方々はそういう気概を持って、絶対に私たちは消滅させないという思いでいこうという事を確認しているところです。

実は**20**代から**39**才迄の若年女性の事が特に強調されています。これが**2010**年で**竹富町**に**550**名余りいます。これが**30**年後の**2040**年には**150**名になると、物凄く減少するという予測です。これで危機的状況だという事が言われておりまして、是非こういう部分の克

服も必要だと思っております。ですから私どもは向こう 1 年間の方針の中でも住みやすい地域、そして石垣市は八重山の経済の中心地ですから、住民の負担軽減をして、うまく石垣市との行き来なども容易にできる、そういうまちづくり、竹富町に住んでも子育てもできる、そういうまちづくりをしていこうという合言葉のもとに、今いろいろな努力をしているところです。この役場の拠点形成、これも大いにその起爆剤になるだろうと思っております。どうぞ皆さんも是非このような部分も含めて忌憚のないご意見を賜りながら、今日の意義ある委員会にしてほしいということをお願い申し上げます。宜しくお願いします。

### 上里副町長

皆さん方に今さらご紹介するような立場ではないですが、上里です。どうぞ宜しくお願いします。3月4日に副町長の辞令交付を受けました。やはり様々な課題がありますけれども、その中でも本当に大きな課題だと思うのが、この問題だという風に思っております。それにつきまして、なるべく早いうちにその決断をしていかなければいけない時期にきているなと思っております。そう意味では、検討委員会の提言の結果、そしてそれをふまえた後で、役場で行っていかなければいけない住民説明会、そういう諸々のものを踏まえた上で、この竹富町の未来のいわゆる大きな課題に決断していかなければいけないと思っておりますので皆さん宜しくお願いします。

## 3 委員長あいさつ

### 上妻委員長

改めまして、こんにちは。前回は2月20日、第3回の検討委員会でした。今回は4回目の委員会になります。新庁舎建設のあり方検討委員会ということで回を重ねてきましたが、論議の方向性、新庁舎のあり方に関わる論点・ポイント・重要事項、検討の枠組みなどについて、かなり認識の共有も図ることができたのではないかと思っております。

今回を含め、委員会もあと2回です。7月の下旬を目途に開催予定と伺っている第5回が最終。従いまして、本日は委員会の着地点も意識しながら、アウトプットを念頭においた議論・検討を深めたいと考えております。資料もたくさんあり、内容も目白押しですが、楽しく、わかりやすく、要領よく、良い会議にしたいと思います。どうぞよろしく願い致します。

## 4 議事

### (1) 第3回委員会の論点（意見・指摘等）について（資料1）

### 上妻委員長

それでは、議事に沿って進めてまいりたいと思います。

議事次第の(1)、第3回委員会の論点。これは私の方で説明したいと思います。第3回ですが、どういう委員会であったかということ、まず、事例研究、関連報告がございました。事例研究は、越善委員から東通村における役場庁舎の移転・建設についてのご報告、もう

ひとつは、他の島嶼自治体の事例調査報告がございました。関連報告のほうは、役場庁舎利用者実態調査、各港の乗降客数や取扱貨物量の概況、それから本日のメインの検討事項になる「新庁舎・支所等の機能分担のあり方」に関する6つのパターンの比較検討素案。これらを材料により具体的な論議をしたのが第3回でした。

青森県の東通村のケースは、行政区域外から区域内に庁舎を移転したという先行事例で、約100年の間、隣のむつ市に役場が置かれていたという背景がございました。行政の中核拠点を村内に置く中で住民や職員の意識が変わったという村長のお話があり、これに対し、機能面だけではないメリット、町内に拠点を形成する意義を感じたという委員のコメントもございました。また、東通村の取組みは、旧12村、29集落で構成される地域の一体性を回復・構築していくプロセスであったという理解もございました。一方、竹富町との比較では、陸と海の違い、多額の公共投資、財源状況など、まったく条件を異にするところもありました。

島嶼自治体のほうは、長崎県の佐世保市、小値賀町、岡山県の笠岡市の3ヶ所を事例に、現地調査を含む報告がありました。現地には私も参りましたが、人口減少、島外への人口流出、高齢化など、地域の存続そのものが大変厳しい状況の中で、いずれも強い危機感をもって取り組んでいる点が印象的でした。佐世保市に吸収合併された旧宇久町では、宇久行政センターを拠点にしながら、特に産業支援機能を大事にしていくといった現場の声がありました。他方、宇久とは別に単独町の道を選択した小値賀町では、地域振興への独自の取組みや地域経営の現状をお聞きしました。それから岡山県笠岡市では、行政と住民が協働で出張所を運営するような仕組み、7つの有人島について島ごとに地域担当職員を配置するといった地域支援機能など、それぞれ非常に参考になる事例がございました。

それから、「新庁舎・支所等の機能分担のあり方」に関する6つのパターンに関しては、これは本日のメインの検討課題にもなりますので、詳しいところは後半の議事に回したいと思います。その趣旨は、「庁舎を西表に置くのか、石垣に置くのか」という二者択一的な議論を超えて、本庁舎・支所・出張所を含む町役場の新しい全体像について、より丁寧に、複数のパターンに即して検討を図りたいということで整理したものです。一方、大浜委員からは、支所や出張所にどういう機能を持たせるか、もう少し具体的に検討し明らかにしないと評価が難しいという的確なご指摘がありました。ご指摘をふまえ、今日の報告では、各島に置くべき機能、石垣に置くべき機能についても説明があると思います。具体的には、住民のための窓口業務、相談業務などをどこにどう置くのが最適かという課題もあります。これに関しては、利用者実態調査との関係が出てまいります。前回の時点では132件しかありませんでしたが、今回は二千数百件の母数となっていますので、かなりしっかりした根拠が出てきていると思います。本日の会議では、この6つのパターン別評価について、検討を深めたいと思っております。

それから、海上交通ネットワークに関しては、赤嶺委員から、「安全で便利な航路の整備、負担の少ない運賃体系の構築が必要」というご意見がありました。まったくその通りで、これは委員会の総意とも言える見解ではないかと思えます。ただ、現在は結ばれていない島間の航路の問題がある中で、既存の航路とは別に、公営による生活航路、福祉的航路を

新設できるのかといった新しい課題も浮かび上がっております。その場合、既存の航路と住み分けをして補助航路の要件を充たすなど、より具体的な方策を考えなければならないという問題もあります。役場の移転とある意味セットの問題とも言える望ましい交通体系の構築について、大変重要な論議もございました。

それから、「庁舎移転と今後のまちづくり」に関するご意見と論議もありました。先ほど町長のお話にもあった将来のまちづくりにも関わる話ですね。今井委員、三木委員からは、医療と教育の重要性に関するご意見がございました。また、大浜委員からは、年間 110 万以上の観光客・交流人口がある中、どうしたら定住人口の確保につなげていけるかという問題提起もありました。そういった、非常に重要なまちづくりの課題がある中での庁舎の移転・新設ということでもあります。いずれにせよ、「新庁舎建設のあり方」というのは、基本的には竹富町が目指すべき新しい行政のすがた、新しい行政システム、庁舎の移転・建設を含む新竹富町役場のあり方であり、我々が検討すべき課題の柱ではないかと思っております。その中で、将来のまちづくりに関わること、地域活性化に関わること、人口増に関わることなど、様々な問題について、地域支援機能のような新しい展開を考えていくことも重要ではないかと考えます。

長くなりましたが、前回の委員会の意見・指摘等の論点は以上でございます。

では、続いて関連報告の②になります。「船舶交通に関する町の施策動向」、事務局から報告をお願いします。

(町長退出)

## (2) 関連報告

- ①役場庁舎利用者実態調査の結果について（概況とポイント）（資料 2）
- ②船舶交通に関する町の施策動向（船賃軽減事業、社会実験航路）（資料 3）

## 事務局

□資料の説明

### 事務局（勝連企画財政課長）

定期航路の運航モデル事業、これは黒島～大原間において、昨年一年間は町単独事業で実施していたのですが、今年度は一括交付金事業費を使ってこれを実施するという事です。詳細な実績などについては後程資料を確認の上説明いたしますが、一日当たりの利用客は、夏場は黒島～大原間の利用者は多いのですが冬場が大変少ないという状況です。まだまだこれも認知度が低いということで利用者が少ないのではないかと、今後この路線の PR をしていければ、少しは増えるのではないかと期待感を持っております。今年度も引き続き実施しておりますので、この実績は年間を通して、皆さんに報告する機会があればやっていきたいと思っております。

(資料 3) 3 ページの竹富町民等船賃負担軽減事業、年度が少し違うのですが、沖縄県が

沖縄本島、周辺離島、宮古、八重山地域船賃軽減事業を実施しております。この沖縄本島地域はほとんどカーフェリー、貨客船も用意した運賃でやっていますが、一方竹富町においては、貨客船はほとんど利用していない、ほとんど100%と言ってもいいくらい高速船を利用しているということで、これまでの県の船賃軽減事業は高速船には適用されないという事がありまして、竹富町は独自に県と国と調整しまして、平成27年7月1日を目途に独自の船賃軽減を図ろうと考えております。具体的には各石垣間の料金等については、手元に資料がなくて申し訳ないのですが、現在船賃は竹富でしたらこれまで1100円位だったところ560円位まで引き下げられているということで、非常に町民からも喜ばれている事業でございます。以上です。

#### 上妻委員長

ありがとうございました。それでは続いて資料4になります。「新庁舎建設に係る規則、計画、財政措置等に関する参考資料」について、事務局から説明をお願いします。

#### ③庁舎建設に係る規則・計画・財政措置等について（資料4）

##### 事務局

資料の説明

#### 上妻委員長

ありがとうございます。今の「新庁舎建設に係る規則、計画、財政措置等」の話ですが、内容が少し各論と言いますか、一步踏み込んだ印象をお持ちになった委員もおられるかと思えます。これをまとめたのは、前回の委員会で、「物理的に西表に庁舎を移転・建設することについて、もっと具体的なイメージをはっきりさせたほうがいいのではないか」との意見があり、また、2回目の委員会だったでしょうか、土屋委員から自然環境への影響の問題に関する重要なご指摘もありました。そういったご意見やご指摘をふまえ、先ほどの資料を提示し、報告したということです。

6つのパターンでも、本庁舎を配置する場所は石垣か西表ですね。そうすると、西表島に置く場合にどのような条件が生じるのか、どのような要件を充たさなければならないのか、こうしたことも含めて前提条件をクリアにしておくべきではないかということで、あえて資料4という形でまとめた次第です。

関連報告はここまでですが、できれば、審議事項の①、「これまでの調査結果をふまえた今後の行政サービス」を続けて説明願いたいと思いますが、いかがでしょうか。資料5の「今後の行政サービス提供のあり方について」は非常に重要な資料で、先ほどの役場庁舎利用者実態調査と関わりと、この後の6パターンの比較検討・評価を結ぶ前提となるものでもございます。この資料5をご説明いただき、そこでいったん休憩にしたいと思います。では、よろしくをお願いします。

#### (3) 審議事項

①これまでの調査結果をふまえた今後の行政サービス提供のあり方（資料5）

#### 事務局（小濱企画財政課長補佐）

委員長からもお話があったように、この資料に関しての根拠として、これまでの実態調査を踏まえている。それで前回の6パターンを説明した時に、機能などをもっと具体的に評価する必要があるのではないかということであったので、そういったことをふまえて資料をつくりました。

□資料の説明

#### 上妻委員長

ご説明ありがとうございました。非常にわかりやすくまとめられているというのが私の感想です。一つ補足しますと、この資料は「今後の行政サービス提供のあり方」について機能としてまとめているということです。実際に新しい庁舎にどれだけの人員を配置し、一方、出張所には何人の人員を配置し、どんな業務を行うかというのは、町が決めることです。そこで、この委員会では、本庁や出張所にはどういう機能が求められるか、どんな機能が望まれるかを検討しようということで、竹富町の地域構造をふまえて、石垣に置くべき機能、新設も含めて各島に置くべき機能という形でまとめています。

1 ページ目の「自治体の庁舎（本庁）に一般的に求められる機能」は、ほぼ全国共通で、そんなに変わるものではないと思います。他方、石垣市内に置くべき機能、各島に置くべき機能、これらはまさに竹富町オリジナルの課題だと思います。前回より支所や出張所のイメージもクリアにできたと思います。その点も併せて、6パターンの評価を含む検討に進んでいきたいと思っています。

ちょうど一時間経ちました。3時10分まで休憩ということでお願いします。

#### 上妻委員長

それでは再開させていただきます。審議事項の①の説明まで終わりましたが、これとの連続性がある資料6、本日のメインの検討事項でもある6つのパターンの比較検討・評価について事務局から説明をお願いします。

#### 事務局（勝連企画財政課長）

資料6の説明に入る前に、先程資料3で船舶交通に関する町の施作、具体的に数字で申し上げられなかったところがありましたので、申し上げたいと思います。

まず黒島～大原間、今現在社会実験ということで昨年今年と実施しております。昨年10月から今年3月迄の6ヶ月間に黒島～大原間を利用した人数が543名。少ない月で1月が33名、多い月で2月が221名という状況であります。10月53名、11月72名、12月73名、1月33名、2月221名、3月91名、合計543名という実績でございます。

それから、一括交付金事業を活用して、竹富町独自の町の割引制度は、具体的には町民の立場で料金を申し上げますと、これはあくまでも現段階の経費で7月1日を予定してお



りますけれども、主な地区で申し上げますと町民の方で石垣～竹富間が現在 830 円かかっているのが 560 円です。石垣～大原間 2440 円が 1620 円。上原～石垣間 3210 円が 1740 円。そして最も遠い石垣～波照間間 4240 円が 1940 円という運賃体系で県、国とヒアリングを重ねて 7 月 1 日実施に向けて調整中でございます。

□資料の説明

②新庁舎・支所等の機能分担のあり方に関する比較検討（資料 6）

### 上妻委員長

ありがとうございました。スクリーンにはパターン 6 が写し出されていますけれども、パターンは 6 つ。機能別評価の観点も 6 つ。これらについてご説明いただきました。

どうしても定性的な評価にならざるを得ない面があると思うのですが、より厳密には、あるいはもっと細かく考えれば、必ずしも記載通りではない箇所もあるかもしれません。一方、現在の老朽化・危険家屋化した庁舎は建替えなければいけないということ、庁舎を建替えても住民サービスは決して低下させない、むしろ行政サービス全体の向上を目指すべきであること、これらは委員共通の認識で、この委員会の総意と言ってよいと思います。その上で、「西表に庁舎を置くのか、石垣に置くのか」という二者択一ではない丁寧な検討を行いたいということで、6 つのパターンを設定し、どのパターンが望ましいかを比較検討しているわけです。この点は改めてご承知おきいただきたいと思います。

いろいろ細かく書いてあり、ストーンと落ちない部分もあるかもしれませんが、端的には、赤字は良くないこと、青字は良いことを書いているのですね。

いずれにせよ、いろいろと悩みながら総合評価まで書き込んでいる資料でございます。そこで、私からご相談も兼ねたお願いなのですが、各委員の評価をご記入くださいという一枚紙がお手元に配布されていると思います。説明のあった 6 パターンが記されていて、併せて 6 つの機能、「住民の利便性」以下「環境への負荷」まで、そして「総合評価」の欄に A～F までをご記入いただきたいという趣旨でお配りしています。今日でなくて結構です。後ほど事務局から返信用の封筒もお渡しします。また、集計に関しては事務局と相談してこう考えております。非常に評価できる+3 点。評価できる+2 点。どちらかと言えば評価できる+1 点。どちらかと言えば評価できない-1 点。評価できない-2 点。まったく評価できない-3 点ということでどうかと思っています。これについてもご意見があればお願いします。よろしければこれでいきたいと思っています。それと、機能別評価の記入項目は 36 あります。ひとつひとつ記入していただければ一番いいのですが、ざっくりと総合評価だけでいきたいというのも有りです。少なくとも書いていただきたいと思っているのは、一番右の総合評価ところに ABCDEF を記入していただき、その結果を次回 7 月の委員会で報告する。そのような形で、冒頭申し上げた着地点を意識した検討結果を明らかにしたいと思っています。同時に、これらの検討・評価のプロセスをわかりやすく明確なものにしたいという思いも含めて、各委員にお願いする次第です。

(大浜委員退出)

### 上妻委員長

次に資料7、「委員会から町への提言文の内容」について説明をお願いします。

質疑・意見交換の前の最後の審議事項になります。今日はまだ文案の文案という段階で、どんな内容がいいのかを含め、次回7月の委員会までに検討してまいりたいと思います。冒頭の青字の部分は私から説明させていただきますが、この文書の性格付けと申しますか、基本的な認識を整理しました。新庁舎建設に関しては、役場移転問題、賛否両論を伴って久しいわけですが、つまり地域住民のコンセンサスに関わる長年の懸案であると。そして、平成27年度中の住民投票の実施も予定されているといった状況があります。そうした中、この委員会の提言文書は、町民の皆さんにとっては、住民投票に関わる重要な検討材料として受け止められることが自ずと想定される。但し、この委員会の議論は、島嶼自治体の竹富町の地域構造にふさわしい庁舎・出張所などの位置づけ、配置、望ましい行政システムのあり方を客観的な立場、第三者の立場から提言することが基本です。特に住民投票の実施に関して意見することは意図していないということです。念頭には置くものの、住民投票に関して何か意見を述べるものではない。それをふまえた上、提言文書は出来るだけわかりやすく、町民の皆さんの目に触れることも前提にわかりやすい文章にしたいということ。それから、毎回、委員会の骨子と論点もまとめておりますが、出来るだけこれまでの論議を通じて得られた見解や考え方に基づいてまとめる。委員会として町に望むこと、竹富町が推進すべきと考えることなどを第三者の立場から提言する。これがこの提言文書の性格だと思います。これまでの議論、各委員の意見をふまえ、願わくば委員会の総意が得られる文章にしたいということで、まとめようとしているのが今日の文案です。

前段に書かれている「これまでの委員会の主な意見・論旨の整理」というのは、1、2、3回の論点の抜粋です。改めて説明は致しませんが、これまでの3回分をとりあえず一つにまとめたものです。そして、3ページ目の「竹富町新庁舎建設のあり方に関する提言文(案)」。日付は7月になるでしょう。テーマ毎に箇条書きにしていますが、文書のスタイルも含め、参考資料を後ろに入れるとか、いろいろ改善の余地もあるかなという印象です。こちらについてもお目通しをいただきたい。今日は提言文をまとめるところまではいかないと思いますが、7月の第5回には何らかの形でまとめたいと考えています。

資料7についてもご意見をいただき、それを事務局が受け止め、よりバージョンアップした提言文を作る。委員の先生方には事前にお目通しをいただき、最終の文書をまとめていく。そういう段取りも必要かもしれません。ご理解いただければと思います。

では、提言文のポイントを中心に事務局から説明をお願いします。

### ③ 委員会から町への提言文の内容について (資料7)

#### 事務局

委員長もおっしゃったように、提言文については素案の素案ということで事務局の方でつくらせていただいたものですので、これはこれまでの委員会の意見、論旨を念頭にまと

めさせていただきます内容としております。

□資料の説明

### 上妻委員長

ありがとうございます。ひと通り説明が終わりましたので、これから質疑及び意見交換に入らせて頂きたいと思っております。何でも構いませんので、質問やご意見を頂戴できればと思います。宜しくお願いします。

#### (4) 質疑及び意見交換

##### 赤嶺委員

資料 6 を見ていると、私は第 1 回からとずっと主張してきました、安全性のある場所に移転するということが、盛り込まれている。安全な場所に庁舎を移転することによって、迅速に対応できて一人一人の命が守られる、これは同じ考えでいいと思う。是非それを、何らかの方法で実現できるよう、国からも助成をいただけるように検討してもらえばよいと思います。

それと評価表の赤字で示してある内容ですが、執行が低下するとか、利便性、迅速性がないとかそういうのは、私はこれもずっと言ってきましたけれども、交通の利便性が問題であります。先程町長が挨拶で言っていました地方創生の問題ですね。今回色々議論されていたことをある人がまとめて言いましたけれど、特に離島を抱える地方、これは平成の大合併に原因があるのではないかということで、交通アクセスの対策が良くなかったと。離島を抱えているところは大変です。陸には国道がありますが、海にはないと思うのです。海にも国道を据えようと思って、検討して国がこれを支えるような交通対策を出来ないかという事に対して、総理大臣がそれは大事な事だ、これは是非重要課題として地方創生によって、交通体系は重要であるという事を、はっきり言っていました。そういう事ですから、交通体系の問題も含めて、利便性を図ってほしい。

それから沖縄本島では、バスは今どこを走っているか検索でき、その時間に行けば乗れる。あるいはタクシーも携帯で呼べる時代。一方、交通分散という問題があります。地方は交通の利便が悪いために、高額な金額を要して買い物に行く。年寄りも車もなく車で行くこともできない。このような課題をうけて、南城市ではデマンドバス制度を敷いた。センターに電話すると家まで迎えに行くが、とても人気があって評判になっている。今まで片道のタクシー代が 2500 円から 3000 円かかっていたが、たったの 300 円。地域の町おこしを増やさない。そういう形で陸だけではなく海も、交通体系を充実させることが重要。この安い料金は国、県、市が運営している。車、船は市が持って助成する。運営は事業者任せ。それが参考に出来れば、離島が今抱えている利便性の悪いという問題は解決できるのではないか。例えば石垣市に住んでいても通勤、通学ができるのではないかと思う。安くて、時間がきちんとして、多いときには便を多くして、少ないときには、便を少なくするとか。

### 上妻委員長

安全で便利な航路、負担の少ない運賃体系など、赤嶺委員からのご提言は大変重要で、後ほど触れる提言文書の案でも、利便性・安全性を備えた望ましい交通体系の確立を図るべき旨を明記しています。

### 赤嶺委員

事業者に赤字にさせないような方法を考える必要がある。

### 三木委員

パターン 5 と 6 の違いは石垣市にこの支所を置くか出張所を置くかという違いだと思うが支所機能というのは、資料 5 の 3 ページにある石垣市内に置くべき機能（案）ということですか？

### 上妻委員長

そうですね？

### 事務局（小濱企画財政課長補佐）

はい、そうです。

### 三木委員

そういうことですね。

### 事務局（小濱企画財政課長補佐）

資料 5 の 2 ページに関しても、本庁舎が西表に移ったとしても、そこに置くべき機能としてもこのような形というイメージとして整理させてもらっています。

### 三木委員

私は竹富町史の編纂員でもあるので文化面からいろいろ意見がある。今、島々編という島々についての本を出していて、始めから一つの島に一つの資料館を置いたらどうかと考えているのですが。というのはこの島の最も特徴的なものを、ひとつのシンボルとして資料館にして、魅力を創生するという事を考えている。例えば新城なんかパナリ焼きで有名だが、パナリ焼きは資料館で見られるとか。その場合、資料館をつくって職員を 1 人、2 人配置して、そしたら比が合わない、とか議論がでてくると思うのですが、その場合機能をくっつけて、資料館ではあるけれども、そこは観光の窓口であったり、物産センターであったり、交流の場であったりと多機能にして、勿論出張所の機能も入っていれば、それ程無駄な出費もかからないのではないか。こういうのをもう少し出張所の中に入れたらどうか。そういう視点が抜けているのではないかと思います。

もう一つは、この 6 つの案を並立的に並べた方針というか。これを見たら明瞭ですよ。

検討した結果はこれですよと、はっきり打ち出して、委員会としてはこうであるということ、打ち出してもいいのではないか。「これは住民投票に影響を及ぼすものではない。」と書いてあって、しかし一方で「住民投票の検討材料として使うという。」と書いてある。これはどういうことなのかわからないけど。

### 今井委員

今、三木委員がおっしゃったように、そこが気になっていて、どういうふうに捉えて言えばいいのか。6 パターンで最後の6番が、プラスが多いの是一目瞭然だと思うのですが、私が気になったのは財源についてです。交通費を安くするというのを継続的にやっていかなければ、交付金が終わった時に財源は何処なのかというところも多分、懸念されるのではないかと思います。だからそういう点も提言すれば、ずっと継続的に交通費だってこんなに安く、皆さんの負担にならないというところも謳ってあげればもっといいのではないかと思います。

三木委員からご提案がありましたが、出張所に一人配置するとやはり人件費の問題もあると思うのです。その時に出張所窓口業務だけではなく特産品の販売促進だったり、ネット販売だったりの業務も行っても良いと思います。そういった付加価値みたいなものを付けるとまた面白い価値観が出てくると思いました。

### 上妻委員長

住民投票に関する三木委員のご指摘に関してですが、確かに委員のおっしゃる通りではありますが、さりとて、この委員会がストレートに住民投票について意見するという事ではない。但し、町民の皆さんに読まれることを前提に置くということです。

### 池間副委員長

判断材料がないと、意思表示は難しいので、せつかくだから町民には読んでほしいと思う。この委員会で、ここまでは議論しましたよと。判断するのは町民の皆さんだから。おそらく住民投票はあるから、住民投票を意図するものではないと書いたと思うけれど、判断材料のひとつとして見て、判断して下さいと言うしかないね。委員会の途中で住民投票の話が入ってきたものだから、ややこしい部分もある。だから、行政サービスのあり方を検討したうえでの提言であるということ、そして委員会の検討結果であり、判断材料の1つにしてくださいと、その辺のいきさつを少し書いたらいいと思う。

それから資料6、詳しいけれど見にくい。長くなってもいいから一枚の紙に収まれば一番いいのだけだね。比較しやすいと思う。前回のような形の方が見やすい。

### 事務局（勝連企画財政課長）

なにしろ文字数が多いものですから。

### 池間副委員長

それと、余計な話だけど、良い方を赤にした方がいいと思う。

### 土屋委員

前回欠席しておりますので、理解が遅れているかもしれませんのでご容赦下さい。いくつかまとめてコメントしたいと思います。資料 5 が話題になっていますが、委員長が重要な資料だと最初におっしゃいました。実態調査をされ、あるいは皆さんのご経験から重要な事項をまとめられているからです。でも伺っていて調査の結果がどうこの資料に表されているかというのが、大変不明瞭でした。こういう結果があるから、ここが言えるとか、調査の結果知らなかったこんな事が見つかったという事を強調すると、調査の意味がもっと出てくると思う。勿論ご経験から調査をしなくても書くことが出来るようなことは沢山あるわけですが、そのあたりをもう少し整理されて、今度の調査、皆さんのアンケートをこのように活かしていますよという、また、町民との連携もますますできますので、この表現において、こういうのがあってもいいかなと思いました。

2つ目は、先程から話題になっているお金のことですが、比較をする場合は土俵をそろえなければいけない。ですが、例えば 3 番をすすめると人件費が倍かかるというのでは困るわけですね。これはすべて人件費あるいは町の予算は同じという前提のもとで比較されているのでしょうか？つまり出張所を新設すると人件費がかかるじゃないですか。この人件費は一月においても非常に大きな割合をしめるわけです。あるいは今の船賃の支援に対しても出費すれば予算がかかります。その予算が長く続くことができるものなのか、少なくともこんな利便性が得られるようなことがあるということまで比較しないと選ぶ方は困ってしまう。現段階で例えば人件費について言えば、6 案全て同じという考えなのか。どうでしょうか？

### 事務局（勝連企画財政課長）

人件費は、そういった経費は全く考えていません。

### 土屋委員

理想論を議論している面もでてきてしまいますので、そのあたりはもう少し議論を深めないといけないという気がいたしました。率直な意見で申し訳ありません。

それから 3 番目は、環境に対する負荷ですけれども、前の議論から申し上げていたのは、機能の移転については、それを利用する町民の皆さんのことと、そこで働く職員の皆さんのことを考えよう。職員の家族のことも考えよう。それがまちづくりという表現に変わってきておりますけど、当然大きな町が、今より大きな町が、ある島にできればそこに対する環境の負荷は大きくなりますよね。でもそれがどの程度工夫されていくことが出来るものなのかという事を議論しないと、どれくらい自然がそのまま残されるのか、あるいは破壊されるのかという事が、わからないのが何だという意見がなければいけない、ということになってしまいます。でも私たち委員会はそのままで議論はできません。それを議論する為には環境の専門家を集めて色々意見交換をしなければいけないので、この委員会とし

てどこまでものが言えるのかということも、環境面からも考えなければいけないという気がしました。

最後に資料 7 でご説明いただいた中で、私のように竹富町外の人間からすると町民の皆さんにはちょっと変な質問なのかもしれませんが、最初から西表島という言葉が出てきますが、なぜ西表島かという説明は不必要なのですか？これは提案書に織り込まれるかどうかは別にして、言い方を変えれば、なぜ西表島かという説明は今までの資料には出ていなかったような気がするのですが。それは今までの竹富町の議論の中で、大前提だという事でよろしいのか、それは町外の人間からすると、少し心配。

### **事務局（勝連企画財政課長）**

これまでの役場移転の審議委員会の中で、場所は何処が一番いいのかということは何十年間議論されていた結果なのですね。友利町長時代に審議委員会を立ち上げて、場所は何処がいいのか、その時から西表東部大原地区だと、これまでずっと議論してきて、また竹富町の町民運動会、色々なイベントなどは、海上交通が便利な西表東部地区だということとで長年議論してきていますので、東部以外という話はほとんど出ないと言っていいくらい。たまに説明会では小浜に、あるいは黒島にという、反対側の為の意見、自分の島にだったら賛成するとか、そういう意見はでますけど。でも大方、これまでの説明会、色々な議論の中で、大原地区だというのが定着しているのですね。

### **土屋委員**

この委員会の役割ではないかもしれませんが、資料を作る側として、特にこれまでの経緯を知らない若い人たちにも読めるようにするには、そのあたりのプロセスを説明した方が親切かなという気がしました。

### **池間副委員長**

それは必要。議会決議なんかはやっているでしょ。そういうことを書かないと、例えばなんで竹富島でないのかという言う人もいるかもしれないしね。

### **土屋委員**

これまでの過程で、例えばここに挙がっているような資料、6つのパターンなどを、どの程度町民の中には知らされているのかとか、報告されていて、認識されているのか。

### **上妻委員長**

2月の第3回委員会の翌日、八重山毎日と八重山日報が6パターンを書きました。これが町民の皆さんが知る初めての機会だったと思います。6パターンを記した資料を出したこと自体、前回は初めてでした。

### **池間副委員長**

そういう判断材料をだす前に、賛成か反対かってすぐ運動化して、すぐ話に入れなかったというのがありますね。

#### **上妻委員長**

西表か石垣か、どっちに置くのがいいかという二者択一の話を超えて、支所・出張所を含む議論をしたいということで、委員会の論議や関連調査を積み重ねる中で設定しました。その結果、これについてはこういう結論になったというプロセスを踏みたいと考えたわけです。

#### **池間副委員長**

こういう話があるのは初めてじゃないですかね。町民のみなさんにこれだけ判断材料があるのだから。

#### **事務局（勝連企画財政課長）**

確かにこのような形で色々なパターンを提案するというのは初めてです。これまでは本庁舎建設が西表東部か、あるいは石垣かこの二者択一的な議論がありました。

#### **三木委員**

これはいいことだと思います。ただ委員会としてはどうなのか。結局委員会としての結論はなんなのと聞かれた場合にどう答えるのか。

#### **上妻委員長**

今ここで私自身の評価を申し上げれば、パターン 6 がいいと思っています。けれども、委員おひとりおひとりの評価や考えは必ずしも一緒ではないと思います。委員会としての結論を出す方法としては、例えば、事務局が「パターン 6 が最も良いと評価していますがいかがでしょうか」といった形で、事務局案をお諮りするやり方もあるのかもしれない。しかし、委員それぞれ異なるお考えもある中で、そうは言ってもここはどうか？ということもあるのかもしれない。それよりも、事務局としてひと通り、出来る限りの説明をして、その上で各委員に評価・採点をしていただき、それを集約するという方法があつていいと思っています。

#### **赤嶺委員**

そうすると委員会として、そういうのをやって、こういう委員の検討結果がということになるのですか？

#### **上妻委員長**

そう考えています。



### 池間副委員長

その辺まで議論できるの？

### 上妻委員長

委員会はもう一回あります。皆さんからいただいた評価を集計してみて、こんな感じになりましたというまとめ方はできると思いますし、私はそのほうが良いと思います。

### 三木委員

前回の委員会の後、新聞報道の委員長談話で、我々としては、結論は出さないというニュアンスの事が書いてあって、僕は終わりだと思ったんですね。これだけ言ったのと、あと、有識者の皆さんが集まっていて何も結論でなかったのかと言われると、これではちよつとね。

### 上妻委員長

パターンいくつがいいよ、という結論が出ていいんじゃないですか。前回、八重山毎日には「優劣付けず」と書かれていましたが、私は優劣付けずとは考えていません。委員会として、この6つのパターンについての検討・評価の結果はこうだったというのは出していいと思っています。

### 池間副委員長

十分についているもんね。住民投票と思うとね、これから町民の皆さんが決めるのに、我々が、これがいいですよと言ったら今度は我々の信任、不信任の投票になってしましますね。

### 上妻委員長

この委員会について町長が常々おっしゃっていたのは、第三者、利害関係のない町外の有識者にお集まりいただいて、客観的な立場から議論をお願いしたいということだったと思うんです。このことをふまえた方法論としても、各委員に評価を記入していただければありがたいと思っています。

それから、先ほど土屋委員から、財源について考慮することもなく、理想論を選択していいのかといったご意見を頂戴しました。おっしゃるとおりではありますが、現実には、財源は合わせ技のような形になっていくのではないかと思うのです。使途に応じて財源もいろいろあり、施設本体については基金、あるいは起債かもしれない。交通体系の整備については一括交付金、また、地方創生の関係で活用できる場所もあるかもしれません。最終的にどれぐらいの費用がかかるか、庁舎本体の建設費用、それに伴う様々な条件整備に必要な費用、6つのパターンに応じた事業費の違いなど、それらの数字をこの委員会の場では算定できないと思います。しかし、いろいろ工夫をしながらお金を引っ張ってくるが必要で、なおかつ可能だと思います。

人権費にも関わる話ですが、現地採用の嘱託職員の方は、徴収業務はできないけれども出張所に常駐して相談を受けるとか、あるいは、三木委員がおっしゃった資料館・資料室の管理はできるでしょう。一方、役場本部の職員は本当に需要があるところには常駐する。そこまで需要がないところは巡回するなど、いろいろと創意工夫もできるのではないかと思います。それから、これは笠岡の事例から得た知見ですけれども、常駐する・しないを問わず地域担当職員を島ごとに任命する。そうした人員の配置、嘱託職員や地域担当職員の職務、それぞれの処遇を決めるのは役場の仕事なんですね。ただ、この委員会としては、こういう機能が必要ということと併せて、こういうやり方もあるといったことも、出来る限り申し上げていきたいと考えています。土屋先生がおっしゃるとおり、理想的な側面は残るかもしれませんが。

### 土屋委員

でも予算的に A が駄目なら、その次で検討していきますが、仮に住民の皆さんが 6 パターンを見て、どれか選ぶときに、ひとつ選ばなければいけないわけですね。でもそういう予算的な違いがあった場合に自分の夢と違うものに決まることはあるわけですから、情報としてはそういう面まで付け加えた方が見る方はわかり易いですね。

### 上妻委員長

まず、住民投票の設問やフォーマットは町が作るべきもので、この委員会がタッチするものではないと思っております。その上で、私の個人的な考えを申し上げます。6つのパターンを住民の皆さんに提示して、そこから住民が選択するというのは違うのではないかと思います。一方、この委員会としては、いろいろ検討した結果、竹富町に最もふさわしいと考えられるパターンについても結論が出た、但し、こういうことが条件であるといった内容を整理する。提言と評価表を集約した結果を町に提示する。それを受け止めた上で、町は内容を検討し、町としての基本プラン、基本方針を作成する。それを住民に説明し、お諮りする、それに対する賛否を問うというのが望ましいと思っております。個人的には、6パターンの選択を住民投票に委ねることではないと思っています。こうしたことを話すこと自体、委員会の範囲を超えていると思うんですが、住民投票の設問やフォーマット、住民投票で何を定めるかというのは、あくまで提言を受けた後の町の判断であると思っております。

### 土屋委員

わかりました。おっしゃる通りだと思います。それは環境面でも全く同じで、仮に A という島に新しく庁舎が移転した場合、どれくらいの新しい町ができ、その中でどれくらい環境に負荷をあたえるかは充分考えなさいよというところまでしか実際は申し上げられませんが、それが悪い方向にいくのが好きじゃないなということがありまして、余計なことを申し上げました。

## 越善委員

申し上げている通り、我々がいろいろ議論してきて提案するわけですから、その中で様々なことを住民がわかり易い、議会がわかり易い、というところを提案していければ一番いい。

## 上妻委員長

副町長、委員ではありませんが、何かご意見やコメントはございますか。

## 上里副町長

住民投票に対して、おそらく我々の方としては、住民投票に入る前に、説明会をすることになってくるわけですが、この住民説明会の中に、こういう形で議論されてきました、そしてここはこう変わっていきます、ここは将来的にはこうやっていきます、その時には財政的な面も含め、どうするのというような質問もおそらく出てくると思います。その時には、地方債の話が出てくる可能性もあります、そしてこの庁舎の建設費用につきましては、起債を立てて、どうにかして地方交付税で措置していく方法があります。あるいは、借入れだけでもって、起債だけでもって、地方交付税などあてにせず、起債だけでも認めてもらいましょうとか、そういう様々なことが出てくるのが予想されます。それを検討していく必要もある。それに必要な建設費にしても、基金がすでに始まっていますから、そういう諸々の部分を説明していかざるを得ない。そしてその後、住民投票になると。それが、一連の流れだと思っております。

先ほど役場のアンケートの結果をどのように反映しているか不透明であるとあったが、それも明らかにして公表してから報告すべきではないかという意見もございました人件費そのものも支所と出張所、本庁の人件費は違いがあります。臨時職員、嘱託、正職員とか配置によって、人件費は変わる。それをどう工面するのかというと、当然それは出てくる問題ですし、環境につきましても人が増えることによって、環境負荷が増えるわけで、それを先程、土屋先生がおっしゃったように、住民の皆さま方に、情報としてどう伝えていくのか、そしてこの負荷を極力おさえるようなやり方はこういう方法で今考えていますとか、西表に住む人にプロセスを充分説明して建設した方がいいのではないかという事もございましたので、やはりそういうことも含めまして今後対応をしていく必要があると考えています。

ただこれだけは言えると思っておりますが、町としてもいつの議会に提言案を提案するのかという事を明言しないといけない時期が近づいていて対応する必要があります。色々な判断が必要になってきますので、そういう判断をしていくための、この委員会で話されていることは非常に重要で、それを十分、“検討会”とはなっておりますが、しつこくないよう噛み砕きながら、説明をしていきたいと思っております。以上です。

## 上妻委員長

ありがとうございます。

### 三木委員

これは是非住民説明会を、改めて町にさせていただいて、検討、判断材料として、住民に理解が深まらないと、住民投票をやってもまた同じ。

### 池間副委員長

全く同感ですね。住民みんなに配布するとか、インターネットもあるじゃないですか。町のホームページに出すくらい自信持って説明してもらいたい。

### 上妻委員長

1回、2回、3回、4回と委員会を重ねてまいりました。予定ではあと1回、第5回目の委員会が残されていますが、その上での竹富町への提言については、わかりやすい文章にまとめて、町に提言できればと考えております。

お帰りになった後でも、何か気付いたことなどございましたら、事務局のほうに随時ご連絡いただきたいと思います。持越しの部分もあるかと思いますが、最後の着地に向けて、皆さまのお力が頼りでございます。どうぞ宜しくお願いします。

以上で議事は終わりましたので、事務局にお返しします。

### 事務局（小濱企画財政課長補佐）

その他ですが、委員長からも話しがありましたように、次回の委員会は7月の下旬を予定しております。改めて事務局より連絡させていただきます。

### 土屋委員

7月下旬ということですが、ある程度選択肢があるのですか？

### 事務局（小濱企画財政課長補佐）

この後、終わりましたらすぐ調整します。

これをもちまして第4回竹富町新庁舎建設のあり方検討有識者委員会を閉会いたします。本日は有難うございました。